

資質能力の向上を目指す現職教育

－ 専門職としての自覚と確かな指導力を高める研修の充実－

I はじめに

変化の激しい時代の中で、これまで以上に質の高い専門性と豊かな人間性が我々教職員に求められている。そこで、学校では、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力など、確かな学力の育成に努めなければならない。また、家庭や地域社会の教育力低下、いじめ・不登校といった様々な教育課題を解決するためにも、我々教職員の指導力向上と意識改革を推進していかななければならない。

そのために、校長は、校内研修体制を見直し、一人一人の教職員が自己の能力を向上させることのできる場や機会をつくり出すことが大切である。その上で、個々の教職員がもっている能力を結集し、教職員が一丸となって力を十分発揮できる体制を構築していくことが重要であろう。

II 研究の概要

1 研究計画<平成22・23年度の2年間継続研究>

(1) 1年次<平成22年度>

- ア 研究テーマの共通理解と研究内容検討
- イ 講師を招聘しての理論学習会
- ウ 研究テーマにおける校長のかかわり
- エ 市内小学校13校の実践事例の発表と討議
- オ 1年次の研究のまとめ(成果と課題)

(2) 2年次<平成23年度>

- ア 1年次の成果と課題を生かした市内小学校13校の実践事例の発表と討議
- イ 研究テーマにおける校長のかかわり
- ウ 研究発表
- エ 研究のまとめ(成果と課題)

2 研究内容

- (1) 校長のリーダーシップのあり方や研修の充実に向けての具体的な方策等について学習を深めるため、古川鉄治相模原市立上鶴間小学校長を講師として招聘し、「『若き人材をどう育成していくか』～校長が自ら初任者を育てる早朝ゼミを実施してみよう～」をテーマとした講演会(理論学習会)を実施した。
- (2) 現職教育を進める上での各校の様々な取り組みや実践事例をまとめることは大きな意味をもつと考え、市内小学校13校が、レポート提案による実践事例発表

を行い、意見交換・情報交換を図りながら、研究を深めた。

ア 発表Ⅰ＜A小学校－「教師力プロフィール」を取り入れた取り組み＞

イ 発表Ⅱ＜B小学校－「学校力」・「教師力」強化を取り入れた取り組み＞

(3) 教職員の資質・指導力の向上につなげる校長のかかわりとして、次のような場面での指導・助言・賞賛・激励が必要かつ重要であることを確認した。

ア 学校経営ビジョンの明確な提示

エ 日常の授業・教育活動の観察

イ 校内研修の推進・充実

オ 特別支援教育・支援計画への参画

ウ 教職員評価制度の積極的活用

(4) 特別支援教育の先進校である、稲城市立稲城第三小学校の学校視察研修をきっかけに、「学ぶ甲州市校長会」を構築して研究を推進するとともに、校長自らが校内研修や市学習会の講師を務め、教職員の意識改革や資質向上を図った。

ア 事例Ⅰ＜校内研修における講師としての取り組み＞

校長が講師となり、それぞれのテーマに沿った講演を行う場面を校内研修計画の中に位置付け、研修の充実を図るとともに、教職員の共通理解を図った。

① C小学校－「問題解決能力の向上を目的とした研修手法」

② D小学校－「特別支援教育を視野に入れたどの子ども伸びる授業の工夫」

イ 事例Ⅱ＜市学習会における講師としての取り組み＞

甲州市の全小・中学校の教職員を対象に、E小学校の校長が講師となり、「発達障害児を含めたすべての子どもたちのために(全校の学力向上をめざして)－特別支援の視点から－」と題した講演を行い、次のことについて、市全体で統一した取り組みを行うための共通理解を図るとともに、その第一歩を記した。

① 「黒板に集中させるための教室掲示」の工夫

② 「単元全体のスケジュールと1時間の授業のスケジュール」の明示

③ 「話すこと・聞くことの約束や意思表示のためのハンドサイン」の徹底

④ 「全員に発表させるための発表予約やグループごとの発表予約」の推奨

III まとめと課題

研修の充実と意識改革は、これまでの教育活動の中でも追求されてきた重要なことである。本研究は、教職員が職務の中で、専門性や指導力を高めるために必要な研修の具体的方策等を探るものであり、質の高い現職教育の向上を図る指導の工夫・改善という視点から、改めて、各校での取り組みを見直し、更なる工夫・改善を図っていくことの重要性が確認された。併せて、各校が、他校の取り組みや実践の優れたところを取り入れアレンジし、よりよい学校づくりを推進することが大切であることも確認された。

また、校長が抱く学校への強い思い(学校経営の明確な方針・ビジョン)を教職員に提示する中で、校長としてのリーダーシップを発揮することが、最も重要であり、我々校長が、自ら研鑽を積み重ね、教職員一人一人の専門性や資質をさらに高めたり、研修を充実させたりするために、本研究を継続し深めていきたいと考えている。

(部長 今澤寛万呂)